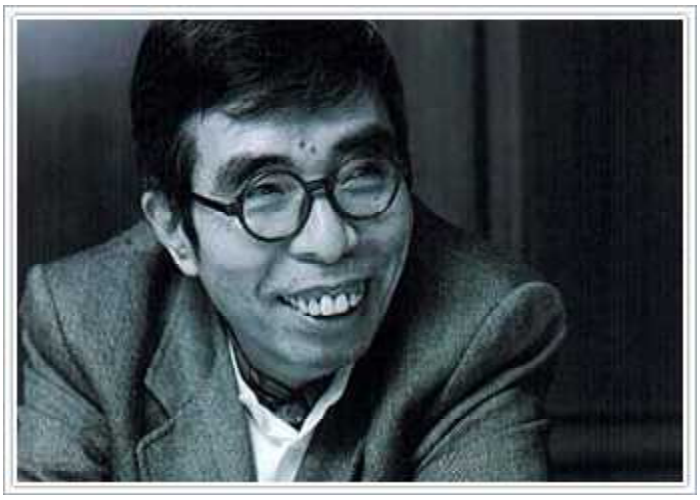
井上　ひさし

一九三四年十一月十七日～
二〇一〇年四月九日

日本の小説家、劇作家、放送作家である。文化功労者、日本藝術院会員。本名は井上厦（いのうえ　ひさし）。「遅筆堂」を名乗ることもある。

日本劇作家協会理事、社団法人日本文藝家協会理事、社団法人日本ペンクラブ会長（第十四代）などを歴任した。



作品「握手」と井上ひさし

井上ひさしの経歴から一部を紹介します。

（……前略）母は一関市で社長の座につくが、経営はうまくいかず、会社は程なくして解散。生活苦のため母はカトリック修道会ラ・サール会の孤児院（現在の児童養護施設）「光が丘天使園」（宮城県仙台市）にひさしを預ける。

そこでは、カナダ人修道士たちが児童に対して献身的な態度で接していた。カナダから修道服の修理用に送られた羅紗もまず子供たちの通学服に回し、自分はぼろぼろの修道服に甘んじ毎日額に汗して子どもたちに食べさせる野菜などを栽培していた。このような修道士たちの生きかたは入所児童を感動させ、洗礼を受ける児童が続出した。ひさしもその一人となった（洗礼名：マリア・ヨゼフ）。

一方、井上の孤児院時代の友人によると、この孤児院は理不尽な体罰といじめが横行する弱肉強食の環境であり、当時の井上は弟と一緒だったが「小さな弟がいじめられて泣いてもかばえないような奴でした」「口がうまくてそれで渡り歩いたようなところがあった」という。井上在園当時に園長を務めた石井恭一修道士も「ひさしさんはおとなしい子でしたよ。弟さんは小さくて、よくおねしょをしたので、皆にからかわれていました。彼はかばうことはせずに、はやし立てる仲間の方に加わっていました」と証言している。

ブラザー・ジュール・ベランジェ

仙台の「光が丘天使園」で園児たちから『ジュルっこ』という名前で親しまれ、井上ひさし氏の小説「握手」の主人公『ルロイ修道士』、「モッキンポット師の後始末」などの小説の『モッキンポット師』のモデルとなったカナダ人のラ・サール会修道士。

ブラザー・ジュール・ベランジェの略歴

1913年6月10日　サン・タレクサンドルにおいて17人兄弟の14番目の子供として出生
1927年8月22日（14歳）　サン・フォア小修練院に入る
1929年8月29日（16歳）　初めてブラザーの修道服を着る
1930年8月15日（17歳）　初めての誓願　修学院へ進学
1938年7月14日（25歳）　ケベックで終生誓願をたてる
1939年7月（26歳）　願い出て宣教の道を選ぶ
1940年9月末（27歳）　ヴァンクーヴァーで氷川丸に乗船
1940年10月19日（27歳）　横浜港に到着、韓国、中国を経て満州の瀋陽に到着。修道院において日本語を学習、小神学校で教鞭を執る
1941年12月8日　真珠湾攻撃
1941年12月11日（28歳）　香港上海銀行の建物に連行される
1941年12月21日（28歳）　ムクデン・クラブ（瀋陽のＹＭＣＡ）に移動させられる
1942年1月末（28歳）　四平（スーピン、Ｓｚｅｐｉｎｇｋａｉ）の神学校に強制収容させられる
1943年5月末（29歳）　山北村の強制収容所に移動させられる
1945年8月15日（32歳）　日本の無条件降伏、数週間後、カナダに帰国
1945年11月（32歳）　ケベック市
1946年9月（33歳）　アルタバスカ
1947年夏（34歳）　サン・ジェローム
1947年9月（34歳）　トロント市
1948年1月（34歳）　オッタワ・アカデミーの年少修練院で教鞭を執る
1948年6月（35歳）　再び日本に戻り、児童養護施設ラ・サール・ホームの設立に着手
1950年（37歳）　児童養護施設ラ・サール・ホーム園長に着任
1953年9月（40歳）　ローマに向かい、第二の修練を9ヶ月間受ける
1955年4月（41歳）　仙台に戻り、児童養護施設の園長と修道院長を兼務
1962年1月（48歳）　カナダでの休暇を利用してコンプトンにおいて百日間の黙想
1962年7月（49歳）　日本に戻り、東京学生寮の舎監に就任
1962年8月（49歳）　修道院長兼務
1966年11月（53歳）　函館ラ・サール高校寮舎監に就任
1970年9月10日（57歳）　鹿児島ラ・サール高校寮舎監に就任
1973年1月（59歳）　東京学生寮舎監に就任
1978年春（64歳）　東京の聖母病院に1ヵ月検査入院
1978年8月（65歳）　カナダに帰国、入院
1978年秋（65歳）　左の腎臓と膀胱を切除
1979年3月（65歳）　日本に戻り、東京学生寮舎監に復職
1979年12月（66歳）　二度目の入院、化学療法を受ける
1979年12月17日（66歳）　退院
1980年1月12日（66歳）　日野において最後の聖体祭儀
1980年1月13日（66歳）　日野において学生寮の寮生とＯＢとのお別れ会
1980年1月15日（66歳）　羽田空港からカナダへ帰国
1980年3月20日（66歳）　帰天